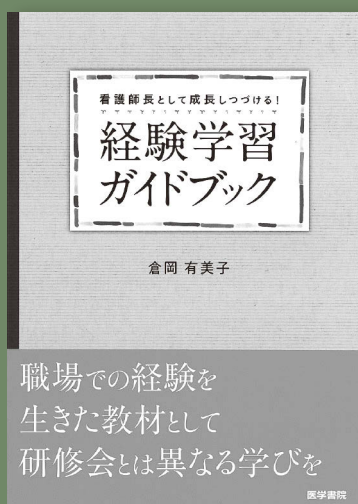


書評

看護師長として成長しつづける！
経験学習ガイドブック

- 著 倉岡有美子
- 定価 本体 2500 円＋税
- 判型 B5
- 頁数 104 頁
- 発行 医学書院

評者

昭和大学病院看護部 次長
昭和大学保健医療学部 講師
中村綾子

「私の経験」を次につなげる
「知識・スキル」に変える 1 冊

私を形づくるのは日々の出来事

「習うより慣れよ」。この慣用句にうなずく人も多いだろう。私自身もそうだ。先日初めてウクレレに触れたときのこと、ひとまず、いくつかのコードの押さえ方を教えてもらったが、ピンとこない。結局、自分で試行錯誤しながら弾いてみたことが、簡単なコード進行の曲を弾けるようになる近道だったように思う。

では、看護師長の仕事はどうだろう。看護師長になって、新任看護師長研修を受けたり、上司から個別に指導を受けたり、さまざまな方法で学ぼうとする。でもやはり、患者さんとのやりとり、スタッフとの話し合い、他職種との交渉といった、現場での日々の出来事こそが私を看護師長にしてくれたと思う。

そう思う一方で、いざ思い出そうとしても、よほど印象的な出来事ならいざ知らず、毎日の出来事となるとそのときは対処に苦労したはずなのにほとんど思い出せないというのが現実だ。

しかし、私たちは忘れてしまう毎日の出来事とそれへの対処からこそ学ぶべきなのだろう。なぜなら、大きな事件なんてそんなにはなく（あっても困る）、過ぎ去れば忘れてしまうような出来事での対処で毎日は過ぎていくからだ。

大事件への対処は私を一回り成長させてくれるけれど、本当に大事なものは、殻を破るまでに自分自身を育てるのは、普段の出来事とその対処なのだと思う。私たちの体のほとんどを作っているのが記念日のディナーではなく、毎日の食事であることと同じように。

4つのステップで経験学習の
サイクルを回すことができる

さて、本書『経験学習ガイドブック』

は、語り口はライトで読みやすいが、博士論文をもとに書かれており、研究に裏打ちされた看護師長の経験学習の手引書である。

本書に示された「経験学習ノート」を記載することにより、内省を深めたり、記述内容を他者と共有したりできる。また、提示された4つのステップを踏みながらノートを記載することで、経験学習のサイクルを回すことができるという。さらに、幾人かの看護師長の記述から構成された経験学習ノートが例示されており、解説を含め読み進めることで、私たちは追体験による学習もできるのだ。

もっとも、自分の経験を書き残すなら自分流の日記やメモで十分という人もいるかもしれない。確かに書かないよりはよいだろう。しかし、本書の示す4つのステップという作法を会得できたなら、「私の経験」を次につなげる「知識・スキル」に変えることができるのだ。

新たな役割を前にもがく
看護師長に

新任看護師長の1年は、期待に胸を膨らませた自分が世間知らずに思えるくらい、毎日の出来事に追われ、ノックアウト寸前のボクサーのようだったと記憶している。そして、かつての私と同じように、新たな役割を前にもがいている看護師長がそこかしこにいると確信している。そんな看護師長に本書を手にとってもらいたい。

きっと迷いながら経験学習ノートを書き進めることで、あるいは経験学習ノートを通じて上司とやりとりをすることで、自身の成長に気づかされるはずだ。